

TRUSTDELETE **One**

ユーザーマニュアル



はじめに

このたびは、TRUST DELETE One をご利用いただき、ありがとうございます。本サービスは、盗難・紛失時にコンピューター内のデータを遠隔操作で消去するためのセキュリティサービスです。近年多発しているコンピューターの盗難・紛失による情報漏えいに対して、万一の際に大事な情報資産の流出を未然に防ぐことが可能です。

このマニュアルは、クライアントプログラムのインストールと登録、管理サーバーの設定方法および操作方法について説明しています。

■注意■

コンピューターを紛失した場合、消去命令を発行するためには

- ✓ **管理サーバーにアクセスするためのコンピューター**
- ✓ **管理サーバーの URL <https://onebe.trustdelete.biz/one>**
- ✓ **管理サーバーにログインするためのメールアドレスとパスワード**

が必要となります。

万一に備えて、これらを事前に確認しておくことをおすすめします。

本ドキュメント内の機能名称または図は製品のバージョンにより実際の名称またはデザインと異なる場合があります。

Microsoft Windows, Microsoft Windows Vista, Microsoft Windows 7, Microsoft Windows 8, Microsoft Windows 8.1, Microsoft Internet Explorer は、米国 Microsoft 社の米国およびその他の国における登録商標です。本文中のその他の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

[TDO20140205]

目次

はじめに	1
トラスティデリートとは.....	4
■サービス概要	4
■主な機能.....	4
■システム動作環境	5
第1章 トラスティデリートサービスの基本セットアップ.....	6
1.1 基本設定の流れ	6
第2章 クライアント側での作業.....	7
2.1 TRUST DELETE One クライアントプログラムのインストール	7
2.2 クライアントプログラムの利用登録.....	9
2.3 動作と設定の確認.....	12
2.4 クライアントプログラムのアンインストール	14
2.5 再インストールについて.....	15
第3章 サーバー側での作業.....	16
3.1 登録情報の確認	16
3.2 設定の準備と確認.....	17
3.3 クライアントプログラムの登録確認と最後の設定.....	20
第4章 基本セットアップ後の運用.....	23
4.1 コンピューター紛失時の消去命令の発行.....	23
管理サーバーにログイン	23
対象設定の確認	23
消去命令を発行	23
消去命令をキャンセルする	24
4.2 自動消去機能.....	25
自動消去の実行条件	25
設定方法	25
どのフォルダを消去するか.....	25
重要事項（必ずお読みください）.....	26
4.3 BitLocker キーの消去	27
動作条件	27
設定方法	27
4.4 消去の確認方法	28
ステータスの解説	28
消去完了時.....	28
4.5 位置情報取得機能.....	30
動作条件	30
設定方法	30
位置情報の確認方法	30
4.6 管理サーバーのその他の機能.....	31

管理サーバーのログイン時間制限	31
管理サーバーのソート機能.....	31
管理サーバーのコンピューターの登録解除.....	31
4.7 複数台のパソコンの登録と更新について.....	32
複数台の登録.....	32
更新するには.....	33
第5章 トラブルシューティング.....	34
5.1 クライアントプログラム登録時のエラーについて.....	34
ようこそページを「次へ」をクリックしたとき	34
ライセンス番号を入力して「次へ」をクリックしたとき	34
ユーザー登録でメールアドレスとパスワードを入力して「次へ」をクリックしたとき	35
登録の確認で「次へ」をクリックしたとき	36

トラストデリートとは

■ サービス概要

本サービスはコンピューター内のデータを遠隔操作で消去できるサービスです。コンピューターに専用プログラムをインストールすることによって、万一の盗難・紛失時に、ネットワーク経由で命令を発行して、失ったコンピューターのデータを消去することができます。また、コンピューターがネットワークに接続できない状況では、自動データ消去機能をご利用になることでコンピューター内のデータを保護することができるので安心してお使い頂けます。

■ 主な機能



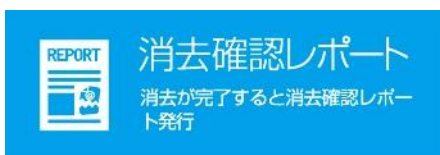
コンピューターの盗難・紛失時に、管理サーバーからネットワーク経由で消去命令を送信することで、紛失したコンピューター内のデータを消去する機能です。命令を受信するためには紛失したコンピューターがインターネットに接続される必要があります。インテル®スマートコネクトテクノロジー対応のコンピューターでは、スリープ中にインターネット接続を検出して、消去命令の受信および消去の実行が可能です。



一定時間コンピューターがネットワークに接続しない状態が継続した場合、時限稼働で消去を実行する機能です。本機能は消去命令を管理サーバーから取得する必要がないため、ネットワークにつながる可能性の低い紛失コンピューターの消去に有効です。



コンピューターの位置情報をGPSまたは無線LANのアクセス情報から特定することができます。※ご利用にはハードウェアの制限があります。



遠隔データ消去や自動データ消去が完了したときに、メールでの消去完了通知が送られます。管理サーバーから消去確認レポートを見ることができます。

■システム動作環境

クライアントプログラム対応 OS

Microsoft Windows 8.1 32/64 ビット (Windows 8.1, Pro, Enterprise)

Microsoft Windows 8 32/64 ビット (Windows 8, Pro, Enterprise)

ハードウェア

CPU: 1GHz 以上を推奨

メモリ (RAM): 32 ビットの場合 1GB 以上を推奨、64 ビットの場合 2GB 以上を推奨

100MB 以上のハードディスク空き容量

.NETFramework4 のインストール環境

管理サーバー アクセス環境

Microsoft Internet Explorer 9, 10, 11

Google Chrome

- ※ 本製品は、1つのライセンスにつき、1つの OS にインストールできます。
- ※ 必要メモリ容量、およびハードディスク容量は、システム環境によって異なる場合があります。
- ※ 本製品をお使いになる前に、使用許諾契約書を必ずお読みください。
- ※ 製品の仕様は予告なく変更される場合があります。
- ※ 本製品の利用登録、プログラムのダウンロード、管理サーバーの閲覧、メールの送受信などのご利用には、インターネット接続環境が必要です。

第1章 トラストデリートサービスの基本セットアップ

本サービスをご利用になるにはまず以下の4つのステップに沿ってクライアントプログラムのセットアップと管理サーバー側のセットアップが必要です。

1.1 基本設定の流れ

STEP01

クライアントのインストールと登録(クライアント側)



管理サイトからダウンロードしたインストールプログラム(TDOneSetup.exe)をダブルクリックし、セットアップウィザードにしたがってインストールします。続いて登録ウィザードに従って利用登録を行います。(本書 2.1、2.2 を参照)

STEP02

登録情報の確認(サーバー側)



管理サーバーにログインし、必要情報の確認とパスワードの変更を実施します。(本書 3.1 を参照)

STEP03

設定の準備と確認(サーバー側)



設定メニューから、クライアントプログラムの基本動作や、どのフォルダ(ファイル)を削除するかを設定します。(本書 3.2 を参照)

STEP04

最後の設定(サーバー側)



登録したコンピューターがホーム画面に表示されたことを確認し、STEP3 の設定を適用します。(本書 3.3 を参照)

利用準備完了

以上でトラストデリートの利用準備が整いました。万が一の際には管理サーバーから消去命令を発行します。(本書 4.1 を参照)

第2章 クライアント側での作業

TRUST DELETE One をお使いいただくためには、クライアント側での作業が必要になります。ここではクライアント側での作業を説明していきます。

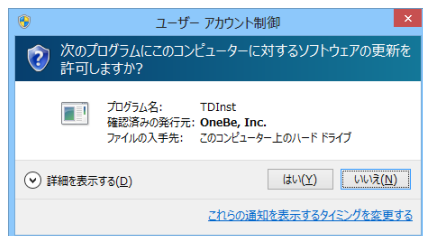
2.1 TRUST DELETE One クライアントプログラムのインストール

1. インストールプログラム (TDOneSetup.exe) をダウンロードサイト (<http://www.onebe.co.jp/support/tdone/setup.html>) からダウンロードしてコンピューターに保存します。
2. プログラムをダブルクリックしてインストールウィザードを起動します。

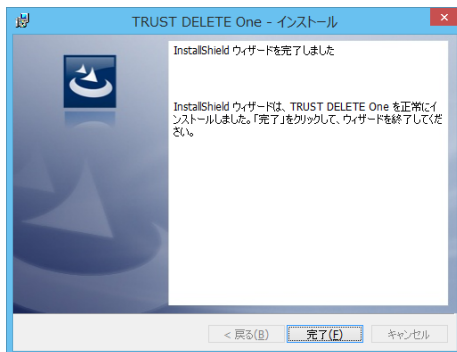


「TDOneSetup」をダブルクリックします

3. ユーザーアカウント制御の画面が表示され、コンピューターへの変更の許可を確認されますので[はい]を選択してください。



4. インストールウィザードが始まったら[次へ]をクリックするとインストール先フォルダの確認が表示されます。そのまま[次へ]をクリックします。デスクトップにショートカットを作成する場合はチェックをそのままにして[次へ]をクリックします
5. 「プログラムをインストールする準備ができました」という画面が表示されたら[インストール]をクリックします。
6. 「インストール完了」の画面が表示されたら、[完了]をクリックしてインストールを終了してください。



※重要	インストール後に利用登録を完了しなければ本プログラムは動作しません。続いて利用登録を必ず行ってください。
-----	--

2.2 クライアントプログラムの利用登録

インストールが終了したら引き続き利用登録ウィザードが表示されます。
 ※利用登録にはあらかじめ9桁-7桁のライセンス番号をご用意ください。

利用登録を完了せずに閉じてしまった場合には、
 デスクトップの「トラストデリート」アイコンをクリック
 して登録ウィザードを起動することができます。



デスクトップ上のアイコン
 をダブルクリックします

1. 利用登録ウィザードが始まったら[次へ]をクリックすると使用許諾契約書が表示されます。使用許諾に同意いただける場合は[使用許諾契約に同意します。]にチェックして、[次へ]をクリックします。



2. ライセンス番号登録ページが表示されたら9桁-7桁のライセンス番号を入力して、[次へ]をクリックします。



3. ユーザー登録ページが表示されたらメールアドレスとパスワードを入力して、[次へ]をクリックします。

TRUST DELETE One

TRUSTDELETE One

ユーザー登録

ユーザー登録のためにメールアドレスとパスワードを入力してください。
パスワードは管理ページのログインで使用します。
また、パスワードは4~32文字で半角英数字記号を使用してください。

メールアドレス: abc123@mailaddress.co.jp
メールアドレス(再入力): abc123@mailaddress.co.jp

パスワード: *****
パスワード(再入力): *****

OneBe

戻る 次へ

※重要 利用登録いただいたメールアドレスとパスワードは管理サーバーにログインするために必要です。

4. 登録の確認ページが表示されたら、メールアドレスとライセンス番号を確認して、[次へ]をクリックします。

TRUST DELETE One

TRUSTDELETE One

登録の確認

下記の内容で登録してもよろしいでしょうか？
特にメールアドレスが正しいか確認してください。正しくないか確認のメールが管理用のページにアクセスできなくなります。

メールアドレス: abc123@mailaddress.co.jp

ライセンス番号: なし(90日間の試用)

OneBe

戻る 次へ

5. 登録完了ページが表示されたら利用登録は完了です。[閉じる]をクリックして終了します。

TRUST DELETE One

TRUSTDELETE One

登録完了

製品の登録は無事に完了しました。
これよりこのシステムはTRUST DELETE Oneによって保護されます。
登録内容等についてメールを送信しましたのでご確認ください。
なお、TRUST DELETE Oneの設定の管理は下記URLのサイトにて行います。

<https://onebe.trustdelete.biz/one>

メールアドレス: abc123@mailaddress.co.jp
ライセンス有効期限: 2015-01-31

OneBe

閉じる

インストールに引き続いて利用登録を行った場合には、再起動を促す画面が表示されますので、[はい]をクリックしてパソコンを再起動してください。ここで[いいえ]を選択した場合、あとで必ず再起動を行ってください。



トラストデリートの機能を使用するためには再起動が必要です

以上で利用登録が完了です。デスクトップの「トラストデリート」アイコンをクリックするとクライアントプログラムの画面が表示されます。現在の状況でライセンス有効期限が表示されていることを確認してください。

※注意

- ・正しく登録できない場合は、ライセンス番号を確認するか、インターネット接続を確認して登録をやり直してください。
- ・登録失敗の場合はエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージの詳細はFAQを参照してください。
- ・登録ボタンを押したときに「このPCは既に一度登録されています。再試行により上書き登録を行いますか?」と表示されることがあります。この場合は[再試行]をクリックしてください。

2.3 動作と設定の確認

利用登録が完了するとクライアントプログラムは Windows 稼働中には常にバックグラウンドで動作しています。ここではプログラムの画面の機能を説明します。



表示の間隔で管理サーバーに
自動でアクセスを続けます

適用済みの設定名称

このボタンを押すと管理サーバ
ーに接続して命令や設定を更
新します

管理サーバーと通信
した直近の時刻

現在のライセンスで使用できる
期限

クリックすると WEB ブラウザ (Microsoft Internet Explorer) を起動して管理サーバーのログイン画面を表示します

管理サーバーとの認証アクセスのタイミングは？

コンピューターの毎起動時、スリープや休止からの復帰時にサーバーにアクセスを試みます。また決められた間隔で定期的に認証を実行するため、インターネットに接続している間に自動で最新の設定に更新されます。従って通常の利用では特に設定や操作は不要です。

管理サーバーの最新設定をすぐに取り込むには？

コンピューターをインターネットに接続して[サーバー接続]ボタンをクリックします。

=====**その他、ご利用に際してのご注意**=====

自動消去をご利用の場合

- ※ 自動消去はコンピューターが決められた時間内に一度も管理サーバーと認証できない場合に消去命令がなくても自動的に消去を実行します。従って接続環境が利用できる場合はなるべくこまめにインターネットに接続するよう心がけてください。
- ※ コンピューターを修理に出す、または保管する場合は必ず自動消去を無効にしてください。
- ※ OS または BIOS のコンピューターの時刻 (OS または または BIOS のシステムク ロック)

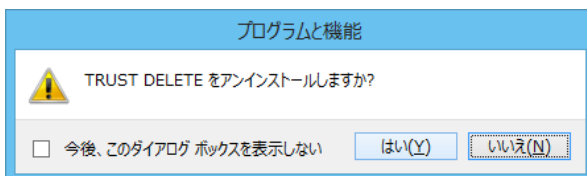
を変更すると、自動消去タイマーが違反を検出して消去を実行します。コンピューターの時刻を操作する場合は必ず事前に自動消去を無効にしてください。コンピューターの時刻を正確に保つために、インターネット時刻と同期することをお勧めします。

- ※ 自動消去を有効にした状態でタイマー時間を経過してしまったら、Windows をスタートすると同時にコンピューターをインターネットに接続してください。Windows 作動から 5 分以内に管理サーバーとの認証に成功した場合、自動消去はリセットされます。

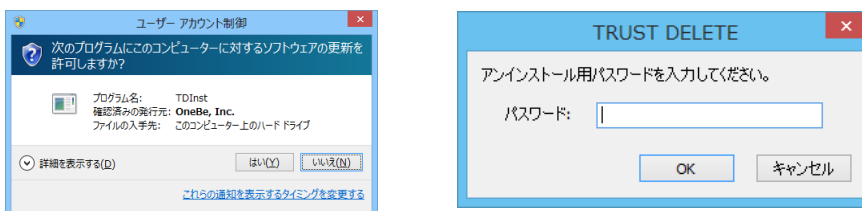
2.4 クライアントプログラムのアンインストール

本サービスのご利用を停止する場合は、コンピューターからクライアントプログラムをアンインストールしてください。

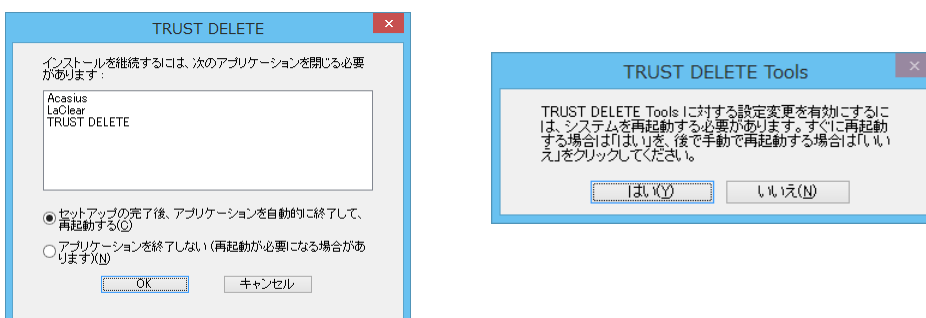
- 2.4.1** コントロールパネルからプログラムの追加と削除を選択し、[TRUST DELETE]を選択し、[削除]をクリックします。
アンインストールの確認画面が表示されますので、よろしければ、[はい]をクリックします。



- 2.4.2** ユーザーアカウント制御(UAC)の警告が表示されたら[はい]をクリックするとアンインストールプロセスが開始されます。
続けてアンインストール用パスワードを入力して[OK]をクリックします。



- 2.4.3** アプリケーションの終了に関する注意が表示されたら[OK]をクリックして続行します。
再起動を促す画面が表示されたら[はい]を選択してください。ここで[いいえ]を選択した場合はあとで再起動してください。



※ヒント	<ul style="list-style-type: none"> ・アンインストールパスワードは、管理サーバーにログインして、管理者メニューの共通設定にアンインストールパスワードとして設定されています。 ・利用登録の前にアンインストールする場合、パスワードの入力は不要です。 ・事前に管理サーバー側で登録解除が済んでいる場合、パスワード入力は不要です。
※注意	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム実行中(消去やサーバーとの通信を実行中)は、アンインストールできないことがあります。必ずプログラムを終了してから、アンインストールを実行してください。 ・アンインストールは管理者権限で行ってください。

2.5 再インストールについて

新しいコンピューターに買い換えた場合、または OS の再セットアップなどでクライアントプログラムを再インストールする場合は、管理サーバー側ですでに登録されているコンピューターの登録を解除する必要があります。管理サーバーにログインしてホームメニューからコンピューターを選択して登録解除することができます。

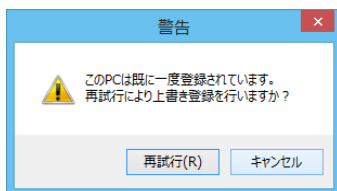
STEP1 再インストール

アンインストールするコンピューターのクライアントプログラムを起動して[サーバー接続]ボタンを押してください。続いて前項のアンインストールを参照してクライアントプログラムをアンインストールしてください。コンピューターを再起動後、コンピューターにクライアントプログラムを再インストールしてください。

STEP2 利用登録のやり直し

再インストールが完了したら、利用登録を必ず行います。プログラムを再インストールしただけでは本システムは正しく動作しません。プログラムの利用登録の項を参照して再び利用登録を実行してください。

2 回目以降に利用登録する場合[登録]ボタンを押下すると以下の警告が表示されることがあります。そのままご利用になる場合は[再試行]をクリックすると登録を進めることができます。



※注意

- ・この警告は管理サーバーに以前の登録が残っている場合に表示されます。[再試行]ボタンを押すと、前の登録に対して上書き登録を実行します。事前にSTEP1を実行していれば再登録時にこの警告は表示されません。
- ・上書き登録を実施した場合、設定はあらためて A01 が割り当てられます。
- ・再インストール時にはできるだけ、管理サーバーの登録情報をいったん解除してから新規に登録しなおすことをおすすめします。

第3章 サーバー側での作業

クライアント側でのインストールと登録が終了した後はサーバー側での作業が必要になります。ここではサーバー側での作業を説明していきます。

3.1 登録情報の確認

※以下の作業はインターネット接続が必要です。

- 1 WEBブラウザ(Microsoft Internet Explorer)から次のURLにアクセスし、管理サーバーにログインします。
<https://onebe.trustdelete.biz/one>
 ※2.2-3.で設定したメールアドレスとパスワードが必要です。
- 2 ログインしたら、左メニューの[管理者]を選択し、運用に必要な情報を事前に確認します。

- 2.1 メールアドレスの変更が必要な場合はメールアドレスを入力し[設定保存]ボタンを押します。このメールアドレスにコンピューターの登録時や消去完了時のメールが送信されます。管理サーバーへログインするためのメールアドレスも変更されます。
- 2.2 管理者用のログインパスワードを変更する場合、ここで新しい値を入力し[設定保存]ボタンを押します。定期的に変更することをお勧めします。
- 2.3 契約台数:お申込みいただいた台数が表示されます。
- 2.4 登録台数:すでに登録済のコンピューターの台数が表示されます。
- 2.5 アンインストールパスワードを入力し[設定保存]ボタンを押します。※初期段階では[0000]が登録されています。任意のパスワードに変更することをお勧めします。コンピューターのクライアントプログラムをアンインストールする際にこのパスワードの入力が必要です。パスワードによってプログラムが不正にアンインストールされることを防ぎます。

※注意 ・ログインパスワードは、4~32文字の半角英数文字および記号がご利用できます。

- ・アンインストールパスワードは、4～32文字の半角英数文字がご利用できます。
- ・アンインストールパスワードの初期値は[0000]です。
- ・各項目を変更した場合は必ず[設定保存]ボタンを押してください。

3.2 設定の準備と確認

ここではクライアントプログラムの動作を決める設定メニューについて説明します。設定メニューではクライアントプログラムの基本動作のほかに、どのフォルダ(ファイル)を消去するかを指定します。左メニューで[設定]を選択するとメニューバーが縦に開いてA01からA04が表示されます。A01からA04は同じ設定項目を備えており、それぞれ別の設定値を保存できます。つまり必要に応じて4パターンの設定をあらかじめ用意してコンピューターごとに使い分けることが可能となっています。

- ※ヒント
- ・初期設定はA01です。つまりコンピューターのクライアントプログラムを登録すると自動でA01が割り当てられます。そのあと任意の設定に変更は可能です。
 - ・A01からA04のすべてを設定する必要はありません。すべてのコンピューターを同じポリシーで運用する場合はA01だけを設定してご利用ください。

ここでは設定A01を説明します。A02からA04も設定方法は同じです。

① 先頭の[A01]をクリックします。

② [設定名称]: 設定に10文字以内でオリジナルの名称を付けることができます。初期値はA01です。

③ 認証通信間隔: 消去命令の取得、設定変更など各種設定情報をサーバーから取得するた

⑤ 自動消去の項を参照してください

消去	フォルダ名	消去方法
<input type="checkbox"/>	デスクトップ	レベル1: 1回書込方式
<input type="checkbox"/>	マイドキュメント	レベル1: 1回書込方式
<input type="checkbox"/>	メール	レベル1: 1回書込方式
<input type="checkbox"/>	ブラウザのお気に入り	レベル1: 1回書込方式
<input type="checkbox"/>	Temp/tmpフォルダ ▲	レベル1: 1回書込方式
<input type="checkbox"/>	Cドライブ	レベル1: 1回書込方式
<input type="checkbox"/>	Dドライブ	レベル1: 1回書込方式
<input type="checkbox"/>	BitLockerキー	

消去	フォルダ名	消去方法	削除
<input type="checkbox"/>		レベル1: 1回書込方式	削除

めにコンピューターがサーバーにアクセスする通信間隔を選択します。5分、15分、30分、60分から選択できます。

- ④ 位置情報を利用する: チェックを入れるとコンピューターの位置情報取得機能が有効になります。詳細は位置情報取得機能の項をご覧ください。
- ⑤ 自動消去設定: 詳細は自動消去機能の項をご覧ください。
- ⑥ 固定設定: 消去する領域を決められた範囲の中から選択して指定することができます。固定設定の各項目の領域は次の通りです。

- ◆ **デスクトップ:** すべてのユーザーのデスクトップ上のファイル/フォルダ
- ◆ **マイドキュメント:** すべてのユーザーの My Document フォルダ
- ◆ **メール:** Windows8 のモダンアプリメール, Windows Mail, Windows Live Mail, Outlook, Outlook Express のメール本文およびアドレス帳データ
- ◆ **ブラウザのお気に入り:** すべてのユーザーの Internet Explorer のお気に入り
- ◆ **Temp/tmp フォルダ:** すべてのユーザーの Appdata¥local¥temp フォルダ
- ◆ **Cドライブ:** Cドライブ上のデータ(※一部のシステムファイルを除く)
- ◆ **Dドライブ:** Dドライブ上のデータ
- ◆ **BitLocker キー:** BitLocker キーを初期化して Windows を起動不可の状態にします。(BitLockerキーの消去を参照)

※注意	Outlook は Outlook 2010, 2013 に対応しています。 PST メールと Exchange メール (OST) の双方に対応しています。
※注意	Windows8 のモダンアプリメールは Exchange メールのみ対応しています。また消去を実行するとメールアプリケーションおよび関連するいくつかのアプリケーションがアンインストールされます。ストアから再インストールすることができます。
※注意	Outlook、Outlook Express、Windows Live Mail はログオン中のユーザーのデータが対象となります。
※注意	Outlook をお使いの場合にはメール本文の消去を実行するとメールデータ以外にアカウント情報も消去されます。
※注意	Temp/tmp フォルダは C:¥Users¥ユーザー名¥AppData¥Local¥Temp が対象です。 C:¥Windows¥Temp は対象にはなりません。
※注意	Cドライブまたは Dドライブを消去指定しても Windows の起動や本プログラムの実行に必要なファイルは消去されません。 消去の対象外となるもの: Windows フォルダ、OS の起動に必要なフォルダ、システムファイルフォルダ、本プログラムインストールフォルダ等

- ⑦ 個別設定: 固定設定以外の任意のファイル/フォルダを消去する場合に利用します。最大 50 項目までオリジナルの設定を作成することができます。
消去したい任意のフォルダのディレクトリをドライブ名からフルパスで入力し、左のチェックボックスにチェックを入れてください。
個別のファイルを指定する場合はそのファイルのフルパスを指定してください。このときファイル名に必ず拡張子も忘れずに指定してください。
例) C:¥Users¥TANAKA¥Desktop¥1 月売上表.xls

※注意	・個別設定枠の右上の[追加]ボタンをクリックすると空白の行が下に追加されます。
-----	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイルやフォルダのパスを入力するときはファイル名、円マーク「¥」やスペースなど間違いのないように確認してください。 ・パスは最大で 255 文字まで入力可能です。
※注意	<ul style="list-style-type: none"> ・お使いのキーボードによっては、円マーク「¥」はバックスラッシュ「\」と表記されている場合があります。 ・お使いの環境によっては、円マーク「¥」キーを押すとバックスラッシュ「\」が表示されることがありますが、その場合は下記のようにフルパスを指定してください。 例)C: \Users\TANAKA\Desktop\1 月売上表.xls

⑧ 消去方法の選択:

- ◆ レベル9 (NSA 方式): 消去能力が高いですが時間がかかるため、重要かつ容量の小さいデータを消去するのにおすすめです。乱数書き込みを 2 回、0 を 1 回、合計 3 回書き込みます。
- ◆ レベル1 (1 回書き込み): レベル 9 と比較して消去能力はやや劣りますが、消去スピードが約 60% と速いため、大容量データを消去する場合におすすめです。0 を 1 回書き込みます。

※ヒント	消去の対象フォルダはコンピューターを盗難・紛失した場合、消去命令を発行する直前に指定または変更することも可能です。
※注意	対象フォルダ内にファイルが多く存在する場合には、コンピューター側ですべてを消去するまでに長い時間を必要とします。盗難・紛失時に、効果的にデータを消去するためには、はじめに重要なデータのみを選択して消去対象にすることをお勧めします。C ドライブや D ドライブを消去する場合はご注意ください。

- ⑨ 以上すべての設定が完了したら、画面の右側にある**[設定保存]**ボタンを必ず押してください。ボタンは画面の上下にあります、どちらか片方を押すだけで保存されます。

※注意	[設定保存] ボタンを押すまで設定項目は保存されません。
-----	-------------------------------------

3.3 クライアントプログラムの登録確認と最後の設定

ここではご利用前の最後の設定を説明します。重要なので必ず確認してください。

1. 管理サーバーにログインして[ホーム]画面を開きます。
2. 登録したコンピューターがリストに表示されていることを確認してください。
各コンピューターの[設定]に適切な番号(A01 から A04)が割り当てられているか確認し、必要に応じてプルダウンから設定番号を選択してください。変更する場合は必ず[設定保存]を押ししてください。



3. コンピューター名をクリックするとそのコンピューターに関する[詳細情報]が表示されます。必要に応じて下記の項目を変更してください。



- ① 設定: このコンピューターに割り当てられている設定番号と設定名が表示されます。
- ② コンピューター名: コンピューターの利用登録時に自動で取得します。
- ③ 利用者: このコンピューターの使用している人の続柄などを入れておくと複数登録したときに区別しやすくなります。(空白でも支障ありません)
- ④ 製造番号: 利用登録時に自動でプロダクト ID を取得します。機種によっては取得できないことがあります。
- ⑤ ライセンス番号: このコンピューターが利用登録したライセンス番号を表示します。
- ⑥ 登録日時: このコンピューターが利用登録した日時とクライアントプログラムのバージョン番号を表示します。
- ⑦ 終了日: 現在お使いのライセンスの使用期限が表示されます。
- ⑧ 最終履歴: このコンピューターで操作した最新の命令を表示します。
- ⑨ 以前の履歴を見る: このコンピューターに対する操作履歴を一覧で表示します。
- ⑩ 位置情報を確認: このコンピューターの位置情報を別ウィンドウで表示します。詳しくは位置情報機能の項をご覧ください。
- ⑪ 備考: 任意の補足情報を最大 40 文字まで入力できます。(空白のままでも支障ありません)
- ⑫ 契約の更新: ご使用中のパソコンのライセンスを更新することができます。(あらかじめライセンスをご購入いただく必要があります。)
- ⑬ 設定保存: 設定内容を変更した場合には、必ず[設定保存]ボタンを押してください。

※注意	[設定保存]ボタンを押すまで設定はシステムに反映されません。
※ヒント	[キャンセル]ボタンを押すとホーム画面に戻ります。
※ヒント	利用者氏名や備考欄の情報を変更する場合は現在の入力をいったん消去してから新たに値を上書き入力してください。

4. 上記の設定を変更した場合、[ホーム]画面上で [A01]のプルダウンの枠がピンク色に変わっています。設定のプルダウンがピンクになっているときは設定の更新以降にそのコンピューターが管理サーバーにアクセスしていない状態を表しています。コンピューターが管理サーバーにアクセスして最新の設定情報を取得すると表示がピンクから白に戻ります。

ホーム

コンピューター一覧

タイプ	設定	コンピュータ名
	A01	
	A02	NO

設定の枠がピンクになっています。

5. [設定]メニューで A01 以外 (A02 から A03) の設定を作成して、それをコンピューターに適用する場合はプルダウンから任意の設定番号を選択してから[設定保存]をクリックします。

※注意	[設定保存]ボタンを押すまで設定はシステムに反映されません。
-----	--------------------------------

※重要※

管理サーバーで設定を変更しても、直ちにその設定がクライアントプログラムに反映されるわけではありません。新しい設定が反映されるためにはクライアントプログラムが管理サーバーと認証する必要があります。管理サーバーで設定を変更した場合には、クライアントプログラムの[サーバー接続]ボタンを押下して最新の設定を取り込むことをお勧めします。

第4章 基本セットアップ後の運用

クライアント側でのインストールと登録が終了した後はサーバー側での作業が必要になります。ここではサーバー側での作業を説明していきます。

4.1 コンピューター紛失時の消去命令の発行

万が一コンピューターを紛失した際は、以下の手順に沿ってコンピューターに消去命令を発行します。

STEP 01 管理サーバーにログイン

ID とパスワードで管理サーバーにログインします。

STEP 02 対象設定の確認

紛失したコンピューターをコンピューター名などの情報をもとに特定します。命令発行の前に消去設定を変更する場合はプルダウンから希望の設定を選んで[設定保存]ボタンを押してください。

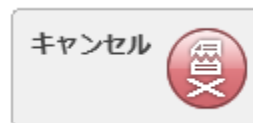


STEP 03 消去命令を発行

該当のコンピューター名をクリックして詳細情報画面を開きます。画面右上の[命令発行]ボタンを押して命令発行の確認画面が表示されたら[OK]をクリックします。



消去命令が発行されると、命令ボタンが[キャンセル]に変わります。
 ※この段階では消去を取り消すことができます。



これで消去命令の発行は完了です。ホーム画面に戻るとステータスが[命令発行]と表示されま
 す。あとはコンピューターがネットワークに接続して消去命令を受け取るのを待ちます。

コンピューターが消去命令を取得すると[キャンセル]ボタンが[消去中]に変わり赤く点滅します。
 ※表示が[消去中]になると命令の取り消しはできません。



このあとコンピューター側で消去が完了すると[消去中]のボタンが元の[命令発行]に戻ります。
 ホームや履歴メニューのステータスに[消去完了]と表示されます。



※注意	消去命令を発行してもコンピューターが管理サーバーに接続するまでは実際には消去は開始されません。
※ヒント	紛失したコンピューターが起動してネットワークに接続する頻度が高いほど消去命令が届きやすく、速やかに消去が始まる可能性が高くなります。画面上の[最終接続日時]を参考にしてコンピューターが定期的に接続しているかどうか推測できます。接続頻度が高くないコンピューターは消去命令を受け取れないこともあります。
※ヒント	消去が完了してもコンピューターがネットワークに接続するまで結果は不明です。従って、実際には消去が終わっていても消去中の表示のままになることがあります。
※注意	消去命令を発行中または消去中のコンピューターは設定変更や解除ができません。設定変更や解除が必要な場合は、いったん消去命令を取り消すか、消去が完了するまでお待ちください。

消去命令をキャンセルする

ホーム画面でコンピューター名をクリックして詳細情報を表示します。右上の[キャンセル]ボタンをクリックします。確認画面のウインドウが表示されるので[OK]をクリックします。命令をキャンセルするとボタンは[命令発行]に戻ります。

※注意	コンピューターがいったん消去命令を取得して、表示が[消去中]になると消去を停止することはできません。
-----	--

4.2 自動消去機能

特定の条件下で一定時間が経過すると、管理サーバーからの消去命令がなくても、時限爆弾のようにクライアントプログラムが能動的に消去を実行する機能です。紛失したコンピューターがネットワークに接続できない状況でもクライアントプログラム側の判断で消去を実行可能です。

自動消去の実行条件

あらかじめ管理サーバーで自動消去実行までの時間を選択します。選択した時間より長い間、コンピューターがインターネットに接続しない状態が続くと、自動消去がスタートします。電源 OFF の間や休止中もタイマーはカウントを続けています。タイマー設定時間に達する前にインターネットに接続した場合、その時点でタイマーがリセットされ、タイマーはゼロから再開されます。

設定方法

設定メニューを開きます。

自動消去を利用する： ボックスにチェックを入れると自動消去機能が有効になります。

設定時間： 自動消去開始までのタイマー時間を選択します。選択した時間以上、インターネットにつながらない状況が続くと自動消去が実行されます。

24 時間、48 時間、72 時間、1 週間、2 週間、3 週間、4 週間、60 日間、90 日間からコンピューターの利用頻度に応じて適切な設定時間を選択してください。

※以上の設定を行った後、必ず画面右上の[設定保存]ボタンを押してください。

認証通信間隔 (消去命令の取得、設定情報の更新)
認証間隔: 5分 ▼ 位置情報を利用する

自動消去設定
 自動消去を利用する ▲
24時間 ▼ 一度も認証しないままこの時間を経過した場合、起動時に自動で消去を実行します

どのフォルダを消去するか

自動消去の実行時に消去されるフォルダは消去対象に設定されたフォルダと共通です。ただし自動消去は管理サーバーと接続しない条件下で作動するため、消去対象の設定があらかじめクライアントプログラムに取り込まれている必要があります。消去命令発行時と異なり、直前に設定した消去対象が自動消去に反映される可能性が少ないので注意してください。

重要事項（必ずお読みください）

- ◆ 不測の事態により誤って自動消去が開始されることを防ぐために、実行直前に 5 分間の猶予期間を設けています。そのため自動消去の実行日時になっても、コンピューターの起動から 5 分以内にネットワークに接続してサーバーと認証すると、自動消去はリセットされます。
- ◆ タイマー時間を過ぎて実行条件が満たされると、OS が起動したタイミングで(5 分以内に認証しなければ)自動消去が実行されます。本機能を解除するには自動消去タイマーが指定時間に達する前にコンピューターをサーバーと接続して認証してください。万一、不測の事態で指定時間よりコンピューターを放置していた場合、あらかじめコンピューターをネットワークケーブルに接続した状態でコンピューターを起動して、起動後 5 分以内にサーバーと認証してください。
- ◆ コンピューターが停止した状態でタイマー時間を過ぎると、コンピューターの起動、スリープや休止からの復帰のタイミングで自動消去が実行されます。
- ◆ コンピューターのネットワークをオフラインで起動したまま長時間放置している状態では指定した時間が経過した時点で自動消去が実行されますのでご注意ください。
- ◆ コンピューターの時刻(OS または BIOS のシステムクロック)を 12 時間以上戻した場合、時刻違反を検出して自動消去を実行します。くれぐれもご注意ください。
- ◆ コンピューターの時刻が正しくないと自動消去が発生する場合があります。自動消去をご利用になる前に必ずコンピューターの日付と時刻が正確か確認してください。コンピューターの時刻をインターネット時刻と同期しておくことをお勧めします。
- ◆ 本機能をご利用になる場合は、時間設定およびコンピューターの使用方法についてくれぐれもご注意ください。紛失が発生しなくても予期せぬ事態によりコンピューターを一定時間使用できなくなる可能性を考慮して余裕のあるタイマー時間を選択してください。
- ◆ コンピューターの修理や復元、長期保管を行う際は事前に自動消去を無効にしてください。
- ◆ 本機能を有効にする場合、コンピューターの利用者に対して、自動消去の機能と実行条件について十分な説明を行ってください。

※自動消去の機能と実行条件について十分ご理解の上、ご利用になるようご注意ください。

4.3 BitLocker キーの消去

一部の Microsoft Windows に搭載されているハードディスク暗号化機能である BitLocker と併用することで、リモートでコンピューターを起動不可能な状態にすることができます。本機能は BitLocker のキーを消去(初期化)することで Windows が回復キーなしでは起動できない状態になります。

動作条件

Windows Vista Ultimate、Windows 7 Ultimate、Windows 8 Pro を使用していること。

BitLocker ハードディスク暗号化を有効にしていること。

コンピューターに TPM が搭載され、TPM を暗号キーとして使用していること。

※注意	「BitLocker ドライブ暗号化」に対応しています。「デバイスの暗号化」には対応していません。
-----	---

設定方法

STEP1 TPM パスワードをコンピューターに設定する

TPM の設定についてはお使いのコンピューターのマニュアルを参照してください。TPM の利用者パスワードの設定が必須です。TPM キーは USB ドライブ等に保存することをおすすめします。

STEP2 BitLocker を有効にする

BitLocker の設定方法はコンピューターまたは Windows のマニュアルを参照してください。

※注意	BitLocker の設定時に回復キーを必ず作成し大事に保管してください。一度 BitLocker 消去を実行すると回復キーがないとそのコンピューターを起動できません。
-----	--

STEP3 BitLocker キーを消去対象にする

設定メニューでお使いになる設定(A01 から A04)を選択し、[BitLocker キー]の消去にチェックマークを入れたのち、必ず[設定保存]ボタンをクリックしてください。

STEP4 消去命令を発行する

通常の消去と同じように消去命令を発行してください。通常の消去(ファイル保存場所を指定する方法)と同時に利用することができます。マイドキュメントやメールの消去と併せて BitLocker キーを消去することで、暗号化済みのディスクを保護することが可能です。

クライアントプログラムは BitLocker キーを消去した後、自動でコンピューターをシャットダウンします。シャットダウン直前にインターネット接続があれば消去完了を管理サーバーに通知してからシャットダウンします。その後、コンピューターの電源を投入しても Windows は起動しません。次回から起動時に[Windows BitLocker ドライブ暗号化の回復キーの入力]画面が表示され、回復キーを入力しない限りコンピューターが起動できなくなります。コンピューターを回復キーで起動して認証に成功すると消去完了扱いになります。

※注意	BitLocker キーのみを消去した場合、消去完了レポートの消去ファイル数は[0]と表示されます。
-----	--

※ヒント	BitLocker の回復キーを入力することでシステムを復号してコンピューターを起動できます。このあと BitLocker を解除するか再設定するまで、毎回起動時に回復パスワードの入力を求められます。
------	--

4.4 消去の確認方法

管理サーバーの[履歴]メニューでは各コンピューターの状態を確認できます。

The screenshot shows the management interface with a sidebar menu on the left. The '履歴' (History) menu item is highlighted with a red box. The main content area displays a table of deletion records. The table has columns for 'タイプ' (Type), 'コンピューター名' (Computer Name), '実行日時' (Execution Time), 'ステータス' (Status), and '選択' (Select). The 'コンピューター名' and 'ステータス' columns are also highlighted with red boxes. The table contains four rows of records.

タイプ	コンピューター名	実行日時	ステータス	選択
PC-002	PC-002	2013-09-17 21:21:58	命令発行	
PC-001	PC-001	2013-09-14 03:32:00	自動消去完了	<input type="checkbox"/>
PC-002	PC-002	2013-09-13 22:10:51	消去完了	<input type="checkbox"/>
PC-001	PC-001	2013-09-13 22:07:00	消去完了	<input type="checkbox"/>

ステータスの解説

ステータス表示	命令の通知状況	クライアントの状態	命令のキャンセル操作
命令発行	命令を受信していません	何も起きていません	可
消去中※	命令を受信済み	消去実行中	不可
消去完了	命令を受信済み	消去が完了	不可
自動消去完了	命令はありません	自動消去が完了	--
キャンセル	受信していません	何も起きていません	--

※消去時間が短い場合は[消去中]ステータスが表示されないことがあります。異常ではありません。

消去完了時

ステータスが[消去完了]に変わります。

コンピューター名をクリックすると[消去確認レポート]が表示され、コンピューター名、利用者名、消去したファイル数と消去完了日時が表示されます。

消去完了時には登録のメールアドレスあてに[消去完了通知メール]が送信されます。

※注意	消去完了の通知を受け取るためにはコンピューターが消去を完了後にネットワークに接続する必要があります。従って、条件によっては実際に消去が完了していても消去完了の通知が管理サーバーに送られてこない場合もあります。この場合、履歴の表示は[消去中]のままになります。
※注意	消去命令を発行していないにもかかわらず消去完了通知が発行されるケースがありますが、これは自動消去が実行されたことを示します。履歴メニューには[自動消去完了]と表示されます。
※ヒント	不要な履歴を削除する場合は左端のチェックボックスにチェックを入れて、[削除する]ボタンを押してください。ステータスが命令発行や消去中のレコードは削除できません。

※注意	消去したファイル数はプログラムが実際に処理したデータ数を表します。消去する領域によっては見た目のファイル数だけでなく、実際には見えない付帯データを消去するため、見た目のデータ数よりも多いファイル数が表示されることがあります。
-----	--

4.5 位置情報取得機能

紛失したコンピューターの位置情報を地図上で確認する機能です。

動作条件

GPS 機能を搭載のコンピューター、または Windows8 で無線 LAN 機能を搭載するコンピューター。位置情報を管理サーバーに通知するにはインターネットに接続する必要があります。

設定方法

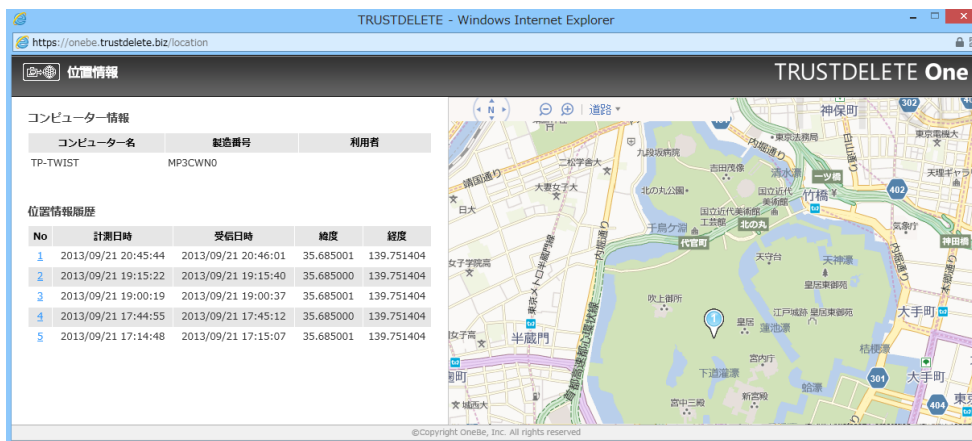
設定メニューの上部にある[位置情報を利用する]にチェックを入れて[設定保存]をクリックします。

位置情報の確認方法

ホームメニューからコンピューターを選択してクリックします。詳細情報画面が開いたら下部の[位置情報を表示]ボタンをクリックします。



別ウインドウで地図が表示され、管理サーバーが受信した直近の 5 件の位置が表示されます。



コンピューターが稼働中に位置情報を定期的に計測しますが、インターネットに接続するまでは計測した情報を管理サーバーに通知することはできません。

直近の 5 か所の計測情報を表示するため、状況によっては 5 件とも同じ位置を表示することもあります。

コンピューターに割り振られた IP アドレスが位置情報データベースとリンクしていない場合、実際の位置とは異なる情報が地図上に表示されることがあります。

4.6 管理サーバーのその他の機能

管理サーバーのログイン時間制限

ログイン後、操作せずに 30 分が経過すると自動でログアウトします。

管理サーバーのソート機能

画面では登録コンピューターの表示をソート機能で並び変えることができます。

並び替えの基準となる項目は[コンピューター名]、[利用者]、[ステータス]、[備考]、[最終接続日時]です。クリックをリポートすると並びが逆転します。リスト左上の[表示をリセット]をクリックすると元の順番に戻ります。

管理サーバーのコンピューターの登録解除

次のような場合は登録済みのコンピューターを登録から外す(登録解除といいます)必要があります。

- ✓ 新しい PC に買い換えた場合
- ✓ OS の再セットアップなどでクライアントプログラムを再インストールする場合、

登録解除の手順

画面右側のボックスにチェックを入れてから[登録解除]ボタンをクリックします。登録解除の確認画面が表示されたら OK をクリックします。以上でこのコンピューターの登録が抹消されます。

※注意	登録解除ボタンをクリックする前に右端のボックスに必ずチェックを入れてください。
-----	---

登録解除のあと、再インストールまたは別のコンピューターを新規にインストールして登録を実行してください。

4.7 複数台のパソコンの登録と更新について

複数台の登録

パソコンを複数台お持ちの場合には、1つのメールアドレスで複数のパソコンを管理することができます。(ライセンスは、パソコンごとに必要です。)

1台目のパソコン

1台目のライセンス番号

登録メールアドレス

2台目のパソコン

2台目のライセンス番号

登録メールアドレス

複数のパソコンをまとめて管理するためには、同じメールアドレスで登録してください



タイプ	設定	コンピューター名	利用者	ステータス	備考	最終接続日時	選択
	A01	NOTEPC-001				2013-12-09 18:36:02	<input type="checkbox"/>
	A01	NOTEPC-002				2013-12-09 18:32:33	<input type="checkbox"/>

複数のパソコンをまとめて管理することができます

※注意	ライセンスを登録後は、登録解除、クライアントプログラムの再インストールを行った場合に、登録時に使用したメールアドレスでのみ再登録をすることができます。
※注意	複数のメールアドレスで登録したライセンスを一つのメールアドレスにまとめることはできません。

更新するには

管理サーバーにログインして「ホーム」画面で製品版に切り替えたいコンピューターを選んでコンピューター名をクリックしてください。「詳細情報」画面が表示されたら「契約の更新」をクリックします。ライセンス番号の入力画面が表示されるので、ご購入のライセンス番号を入力して「更新」ボタンを押してください。その後、詳細情報画面の「終了日」が更新されていることをご確認ください。



契約更新の手続き

契約期間の更新をご希望の場合、新しいライセンス番号を入力して登録ボタンを押してください。

-

ライセンス番号を入力してください

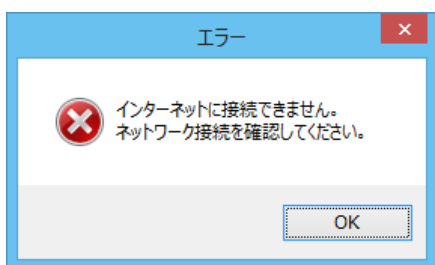
第5章 トラブルシューティング

クライアントのセットアップ時にエラーが発生した場合には、それぞれのエラーのヒントを参照してください。

5.1 クライアントプログラム登録時のエラーについて

ここでは利用登録を行うときに発生するかもしれないエラーの情報とその解決するためのヒントを表示しています。万が一エラーが発生した際に参照してください。

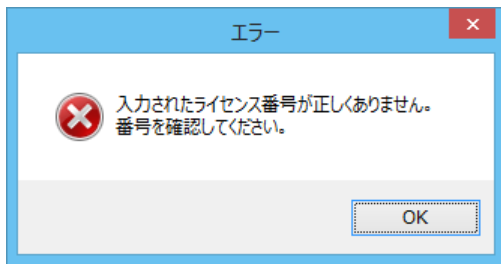
ようこそページを「次へ」をクリックしたとき



※ヒント！

登録にはインターネット接続環境が必要です。インターネットに接続して再度実行してください。

ライセンス番号を入力して「次へ」をクリックしたとき



※ヒント！

入力したライセンス番号が間違っています。ライセンス番号は9桁-7桁の半角英数文字です。大文字、小文字、半角をお間違えないか確認してください。(全角は使用できません。)

間違いやすい文字：

0(数字)とO(アルファベット大文字)

1(数字)とl(アルファベット小文字)

6(数字)とb(アルファベット小文字)

6(数字)とG(アルファベット大文字)

8(数字)とg(アルファベット小文字)

8(数字)とB(アルファベット大文字)

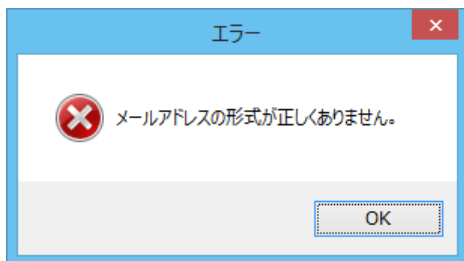
Q(アルファベット大文字)とO

v(アルファベット小文字)とV(アルファベット大文字)

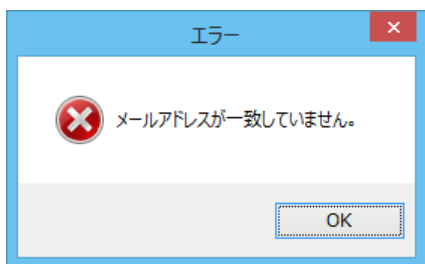
V(アルファベット大文字)とY(アルファベット大文字)

などがあります。

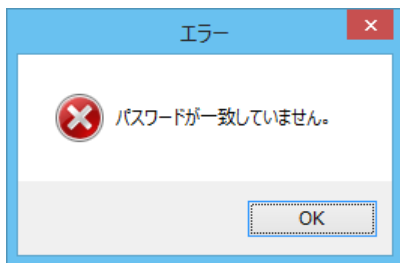
ユーザー登録でメールアドレスとパスワードを入力して「次へ」をクリックしたとき



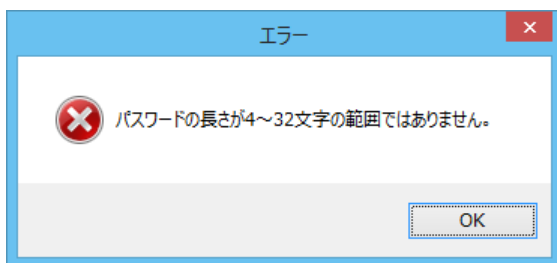
※ヒント！
 入力したメールアドレスが、正しいか確認してください。



※ヒント！
 1 回目に入力したメールアドレスと 2 回目に入力したメールアドレスが異なっています。もう一度入力直すか、どちらかに間違っている個所がないか確認してください。

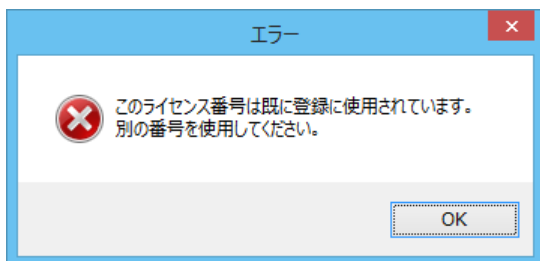


※ヒント！
 1 回目に入力したパスワードと 2 回目に入力したパスワードが異なっています。もう一度入力直してください。



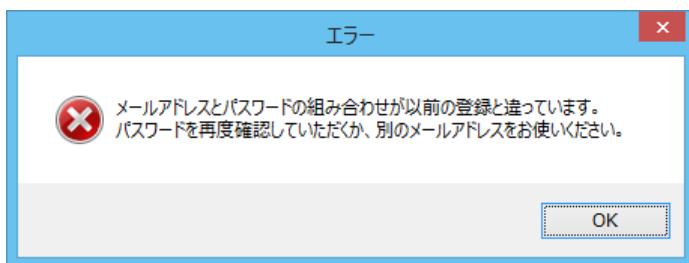
※ヒント！
 パスワードが短すぎるか、長すぎます。パスワードは 4~32 文字で入力してください。

登録の確認で「次へ」をクリックしたとき



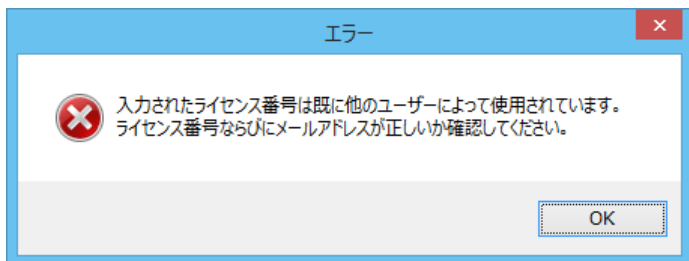
※ヒント！

1つのライセンスで、複数台登録することはできません。複数台のパソコンを管理するためには、複数台の数のライセンスをご用意ください。パソコンを買い替えたなどの場合には、管理サーバーから登録解除を行ったうえで、再度登録を実行してください。



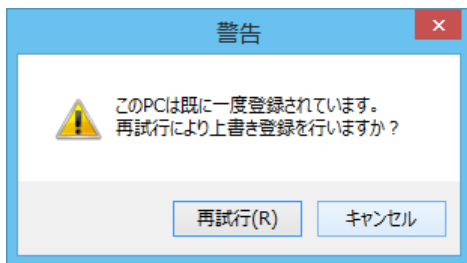
※ヒント！

以前に登録したメールアドレスとパスワードと異なるものが入力された場合に表示されます。2台目のパソコンを登録するためには、1台目に登録したメールアドレスとパスワードの両方を同じものを使用してください。



※ヒント！

以前に登録したメールアドレスと異なるものが入力された場合に表示されます。2台目のパソコンを登録するためには、1台目に登録したメールアドレスとパスワードの両方を同じものを使用してください。



※ヒント！

以前に登録したパソコンの登録情報が、管理サーバーに残っています。このメッセージで「再試行」をクリックすると上書き登録することが可能です。